

Rotary  Go Playing Fellowship
of Rotarians
ロータリー囲碁同好会

NEWS LETTER

NO ,32

2018・06・11

newHP <http://www.gopfr.org>

福田初段（東京銀座新）唯一の優勝杯

<第19回 RI 東京囲碁大会>

前回優勝の台湾不参加で日韓デッドヒート



前列中央は石井良昌前 GPFR 会長夫妻と新藤信之日本支部長、柳貴玄韓国支部長

<大会結果>

2018・04・22 日本棋院本院大ホール

上級クラス(23名)		5段以上	
優勝	6段	金河成 Kim Ha Sung	大邱囲碁 3700
準優勝	6段	江村洋弘 Yoko Emura	盛岡西 2520
3位	5段	松永邦彦 Kunihiko Matsunaga	原町中央 2530
3位	6段	塚本利光 Toshimitsu Tsukamoto	東京京浜 2750
中級クラス(23名)		3~4段	
優勝	3段	柳貴鉉 Ryu Kwi Hyun	東清州 3740
準優勝	4段	商茂均 Sang Mu Gyun	大邱囲碁 3700
3位	4段	鈴木恒男 Tsuneo Suzuki	盛岡西 2520
3位	4段	柳宗甲 Ryu Jong Gab	大邱囲碁 3700
初級クラス(21名)		2段以下	
優勝	初段	福田直利 Naotoshi Fukuda	東京銀座新 2750
準優勝	2段	崔哲守 Choi Chul Soo	大邱囲碁 3700
3位	初段	高理順 Ko Yi Soon	大邱囲碁 3700
3位	4級	滝沢恒夫 Tsuneo Takizawa	結城 2820



開会式で来賓として祝辞を頂いた吉田雅俊 2580 地区ガバナー

第 19 回国際ロータリー囲碁大会

- 日時 2018 年 4 月 22 日(日)
 対局 午前 9 時より午後 4 時 40 分
 表彰式・懇親会 午後 6 時より午後 9 時
- 会場 日本棋院 (対局)
 アルカディア市ヶ谷 (表彰式・懇親会)
- 参加国 韓国 日本
- 参加者 対局者 67 名 初級 (～初段) 23 名 ※うち韓国 7 名
 中級 (二段～四段) 23 名 ※うち韓国 5 名
 上級(五段～)21 名 ※うち韓国 4 名
- 来賓 2 名
 指導プロ棋士 3 名 (土井誠八段と大森泰志八段、韓国は庾炅旻六段)
 同伴者 3 名
 役員 30 名 (対局者 13 名含む)
- ※前夜祭 2018 年 4 月 21 日(土) 午後 5 時より
 市ヶ谷の寿司店
- ※ミニ観光 2018 年 4 月 22 日(日) 午前 9 時 30 分より午後 5 時 20 分
 横浜中華街、横浜港クルーズほか

第 19 回となる国際ロータリー囲碁大会が 2018 年 4 月 22 日 (日) に東京市ヶ谷の日本棋院で開催されました。誠に残念ながら今回は台湾が大会直前のキャンセルとなり、また新たに加わったアメリカもまだ参加に至らず、韓国と日本の 2 か国での大会となりました。しかし日本は初参加者が 18 名と新鮮な顔ぶれで、大会は大いに盛り上がりました。その様子をお伝えいたします。

「大いに盛りあがった前夜祭 洪プロも参加！」

大会は前日に日本に到着する韓国勢を出迎えることから始まりました。日本の役員の大森が韓国チームの宿泊先でもあり、また大会関係者の宿泊先ともなるアルカディア市ヶ谷で韓国チームを出迎えました。前夜祭となったのは近くのお寿司屋さん。3 年前の日本大会と同じ店ですが、特別なお寿司のコースを段取りしてのおもてなしをしました。

乾杯直後から両国の交流がスタートし、そして途中からは翌日の大会にそなえ日本棋院での準備を終えた日本チームの役員も合流しました。全員がそろったところで、お寿司の 100 貫盛りが登場。お寿司がズラリと並ぶ大きな丸皿、長い長い皿にあちこちで歓声が上がりました。お寿司人気もあり、和気あいあいとなったところに洪清泉プロ 3 段が登場しました。関西棋院所属で韓国済州出身。洪プロは日本でのアマチュア時代 (当時は洪マルグン

セム)には全国大会で優勝18回、準優勝9回とアマ会の超有名棋士でした。その後、何回かの挑戦でプロ棋士になりました。2004年までは韓国に住んでいて、今回韓国チームに帯同してきた庾炅旻プロ6段とは旧知の仲とのこと。流暢な日本語での挨拶の中に庾プロと一緒にプロを目指した思い出話になり、前夜祭のボルテージも最高潮に。二人並んだところ記念撮影をとっていました。そして、翌日に備えて前夜祭もお開き、韓国チームもホテルへと戻りました。

「3クラスに分かれて熱戦始まる」

大会当日、9時からの対局開始前に日本チームの役員が集合、檀上の設え係、受付係、机の並び係、そして全員での碁盤片づけと前日の打合せよろしく、一斉に準備に取り掛かりました。定刻前には準備が完了しましたが、特筆すべきは囲碁は打たないロータリーアンが何人もお手伝いしてくれたことでした。各クラブからのいわば助っ人で、中には若い方もいて、力仕事もスムーズに進んだ次第。誌面からながら皆さんに大いに感謝を申し上げさせていただきます。

さて、今回も初級、中級、上級の3クラスに分けての大会運営となりました。それぞれ優勝から3位(2名)までが表彰されるとあって、あちこちで響く石音も少し大き目。ちなみにルールは日本式ルールを採用しましたが、石を崩して数える中国式ルールもあり、混乱を招く恐れがあるということで日本ルールを徹底するため、今回は韓国語(台湾語も)に翻訳して日本ルール説明書を韓国チームに配ることにしました。この説明書、今後の各国での大会でも役立つことになるかもしれません。さらに判定専門の方を役員に入らせていただきました。こうして、各国語に翻訳された日本ルール説明書、専門の判定員と万全な準備のもと対局が始まりました。

対局での大切にしたのはせっかくの国際大会、初参加の方には韓国チームの方と打ってもらうと言うことです。人数比は日本チームの方が多いので、二回戦までに必ず対戦できるよう心掛けました。その上、初参加でない方も韓国チームの方と最低一局は打ってもらえるようにしました。

また、持ち時間はクラスに関係なく40分として、時間が切れた方が負けというルールです。今回はデジタルの時計となり、時間になるとブザーが知らせてくれます。従来のアナログ式で、赤い目印が落ちたら時間切れよりはわかりやすくなったようです。今大会では初級クラスで一局だけ勝負の判定を判定員とプロ棋士に委ねる局がありましたが、それ以外は順調に勝敗がついていきました。

「午前2連敗だと午後は指導対局へ」

今回は韓国から1名のプロ、庾炅旻プロ6段が。そして日本からは2名のプロ、土井誠プロ8段、大森泰志プロ8段の2人、合計3人のプロが指導対局をしてくれることとなります。

した。日本の2人のプロはテレビにも良く登場されるベテラン棋士で、指導対局を楽しみにする方も少なくないようでした。

日本のプロが午後から来られるということで、本対局の午前中2局を連敗した対局者は、2敗したことで3位以上には入れなくなることから午後は指導対局へと回ってもらうようにしました。3人のプロがそれぞれ5面打ちの指導対局をしてくれるということにうまく対応できました。ちなみに、初級と中級からは各6名、上級からは5名、合計17名の対局者が午前中2連敗となり、午後は指導碁になりました。

今回初めて導入したこの「午前中2連敗対局者の本戦離脱方式」ですが、弊害をお伝えすれば、2名の連敗対局者が昼食後に帰ってしまったことでした。確かに上位入賞はないものの、午後に2連勝の可能性もあり、また対局を楽しみにしてきたにも関わらず2局で本戦が終わるのは忍びないかもしれない、ということでした。プロ棋士、しかも高段かつ有名なプロ棋士に指導碁を打ってもらえるのは大変貴重な経験ではありますが、そう思うか否は人それぞれ。次回からの検討事項のひとつになりそうです。

さて、その指導対局では土井誠プロの声が響いていました。

「それはプロですからね、間違えませんよ（笑）」、「閉じ込められたら、やっぱり駄目でしょう」、「ここは飛んで逃げださずにどう逃げますか」と、聞いているだけでも楽しいアドバースでした。

「スイス方式による順位付け」

こうした大会で順位を決めるための一番わかりやすいのは総当たり戦、トーナメント戦になる。ただし、総当たりは総勢4名ぐらいまで、4名でも6局必要となる。トーナメントはわかりやすいが、NHKの囲碁番組が一年かけて優勝者を決めるように、対局数は多くなる。ということで、対局者が多い大会でよく使われるのが、このスイス方式となる。さて、このスイス方式の順位決めだが、人数は何人でも構わないのが特徴で、一局を終えて勝った者同士で二局目を、負けた同士で二局目を。そして三局目は二連勝同士、一勝一敗同士、二連敗同士で対局する。そして四局目は三連勝同士、二勝一敗同士、一勝二敗同士、三連敗同士と組み合わせていく。今回の時間を考慮するとこの四局までが適切と判断して、四局での勝数で順位を決めることになる。

ちなみに今大会では初級クラスでは、四勝が2名、三勝一敗が5名。中級クラスでは四勝が2名、三勝一敗が4名、上級クラスでは四勝が1名、三勝一敗が5名でした。ではこの後どのように順位を決めていくかですが、対戦相手の成績をポイントに換算して順位を決めていきます。つまり、同じ四勝が2名いる場合、その2名それぞれが勝った相手四人の成績をポイント化してその持ち点とします。

たとえば、四勝したAさんとBさんがいた場合、まず、Aさんの勝った相手、四人の対戦成績を見ます。

◎Aさんが一局目に勝ったHさんは四局打って二勝していた
 ◎Aさんが二局目に勝ったIさんは四局打って一勝だった
 ◎Aさんが三局目に勝ったJさんは四局打って二勝だった
 ◎Aさんが四局目に勝ったKさんは四局打って三勝だった（最後Aさんに負けてしまった）
 とするとAさんが四局で得たポイントは、Hさんの二勝、Iさんの一勝、Jさんの二勝、Kさんの三勝を足した八勝がポイントとなります。ちなみに一勝を仮に3ポイントとすれば、八勝分の24ポイントとなります。

次にBさん勝った相手、四人の対戦成績を見ると、

◎Bさんが一局目に勝ったLさんは四局打って二勝していた
 ◎Bさんが二局目に勝ったMさんは四局打って三勝（Bさんに負けた後は全部勝った）
 ◎Bさんが三局目に勝ったNさんは四局打って二勝だった
 ◎Bさんが四局目に勝ったOさんは四局打って三勝（最後にBさんに負けてしまった）
 とするとBさんが四局で得たポイントは、Lさんの二勝、Mさんの三勝、Nさんの二勝、Oさんの三勝を足した十勝がポイントとなります。ちなみに一勝を仮に3ポイントとすれば、十勝分の30ポイントとなります。

ここで、AさんとBさんのポイントを見ると、Aさんが24ポイント、Bさんが30ポイントとなり、Bさんの方がAさんよりも上位ということになります。

このように、全員のポイントを計算していき順位を決めていきます。つまり四勝した場合は勝った4人の相手の勝数、三勝一敗だと勝った3人の相手の勝数が自分のポイントとなっていく計算方式です。

ただし今回は最初に二連敗した対局者は午後の対局がなくなりますから、それも考慮したポイント制にしました。また、このポイントが同じ場合どうするかですが、この時は「段級位の上の対局者を上位とする」、あるいは「高年齢の対局者を上位とする」といった具合に最初からルールを決めておけばよいのです。

ということでスイス式の説明が長くなりましたが、これを踏まえての各クラスの3勝以上の方を紹介します。

初級(～初段)成績表 (23名)

順位	名前	段級位	勝ち	負け	ポイント数
優勝	A 20 福田 直利	初段	4	0	19
順優勝	A 7 崔 哲守	2段	4	0	11
3位	A 5 高 理順	初段	3	1	14
3位	A 13 滝沢 恒夫	4級	3	1	12
5位	A 17 山口 達夫	3級	3	1	9
6位	A 6 李 東眞	初段	3	1	7
7位	A 12 塩澤 雄二	4級	3	1	6

中級(2段~4段)成績表 (23名)

順位		名前	段級位	勝ち	負け	ポイント数
優勝	B 1	柳 貴鉉	3段	4	0	18
順優勝	B 4	商 茂均	4段	4	0	15
3位	B 17	鈴木 恒男	4段	3	1	13
3位	B 5	柳 宋甲	4段	3	1	9
5位	B 2	趙 漢傑	3段	3	1	8
6位	B 3	李 栓基	4段	3	1	7

上級(5段~)成績表 (21名)

順位		名前	段級位	勝ち	負け	ポイント数
優勝	C 3	金 河成	6段	4	0	26
順優勝	C 16	江村 洋弘	6段	3	1	15
3位	C 21	塚本 利光	6段	3	1	14
3位	C 9	松永 邦彦	5段	3	1	9
5位	C 6	矢野 徹	5段	3	1	8
6位	C 17	中山 誠	5段	3	1	7

初級クラスでは福田直利さんと崔哲守さんがともに四勝でしたが、ポイントは福田さんが19、崔さんが11ですから、福田さんが優勝、崔さんが準優勝となります。では三位はというと。

三勝一敗が5人いますが、ポイントを見ると、高理順さん、滝沢恒夫さん、山口達夫さん、李東眞さん、塩澤雄二さんの順になります。そこで三位は2名なので、高さん、滝沢さんが三位となりました。

山口さん、李さん、塩澤さんに行ってみれば「私も同じ三勝なのになぜ」ということになると思いますが、こうしたポイント制による順位方式の結果ということになるのです。

つまり、スイス方式の場合、自分が対戦した相手次第でポイントが大いに変わるということになります。ではその対戦相手はどうやってきめるかというと、対戦表の上から順番に組み合わせていきますので、運不運は否めません。

今回は持ち時間を40分にしましたので、一局で最長80分の対局時間がかかります。となると、このスイス方式の対戦数を一局増やし五局にすると五局目が終わるのが18時近とになってしまう、といことで四局でのスイス方式にしました。今大会を振り返ると、持ち時間を両者が一杯に使った対局は数えるほどでしたので、より結果が明確となる五局制のス

イス方式も検討して良いかもしれません。

ということで、どのクラスも3位と5位のポイント差は僅差ですので、表彰されなかった五位以下の皆様、ちょっと運が悪かっただけとご想像いただき、次回もぜひご参加下さい。

日本支部副幹事 村田洋一（東京銀座新）

初めての国際ロータリー囲碁大会に参加して

福田直利（東京銀座新）

第2750地区東京銀座新RCの福田です。昨年の7月に同RCに入会したばかりの新参者で、今回、初めて国際ロータリー囲碁大会に参加させていただきました。囲碁は大学時代に実験の結果待ちの暇つぶしに、研究室の仲間と始めたのが最初です。実験の合間ということから、短時間の対局となりほとんど考えずに、ひたすら直感で打つという悪い癖がついてしまい、未だに尾を引いている次第です。社会人になってからは、たまに会社の同好会に顔を出すくらいで、ご無沙汰状態が何十年も続いておりました。もちろん、まともな指導やレッスンも受けたことはなく、定石も知らない筋悪自己流で、お恥ずかしい限りです。

今大会も参加することに意義ありとのことで、とりあえず参加登録はしたものの、不安と心配を抱えて大会当日を迎えました。一番の心配は、言葉が通じない中で、果たして碁が打てるのだろうかということでした。英語でもかなり怪しい上、ハングルとなると全くお手上げ。しかしながら、この心配は杞憂に終わりました。お互いの言葉がわからなくても、共通のルールにより特段の支障もなく対局することができました。「手談」という言葉を文字通り、実感した次第です。次に、あっという間につぶれて終わってしまい、相手に失礼ではないかという心配です。これも、紳士淑女の皆様の情けにより、何とか免れることができました。それどころか、全く予想も想像もしていない4連勝という結果となり、初級クラスで優勝させていただきました。正直、自分でも驚いており、今でも信じられないほどです。

驚きの優勝への道(?)を振り返る前に大会について少し書きたいと思います。

まずは会場の話から。そう、会場が日本棋院でした。聞けば今までは韓国、台湾、日本と3カ国が回り持ちで大会を開催してきたとのことで、当初の日本での開催地は関西だったのが、今は日本棋院になったとのこと。今でこそ囲碁の世界戦で優勝するのは中国や韓国ですが、以前は圧倒的に日本が強く、多くの棋士が日本のプロに弟子入りするために日本にやってくると思います。そしてその多くが東京は市ヶ谷の日本棋院を訪れたに違いありません。いわば当時は日本が世界の囲碁界をリードしていて、日本のプロ棋士の拠点となる日本棋院はまさに碁打ちの聖地だったわけです。そこが会場というこの大会に心踊りました。

クラスは3クラス、私は初段ですので、初段までの初級クラスでした。そして中級クラス

が二段から四段までで、五段以上が上級クラスでした。そして各クラスとも参加者が 20 人を超えていました。対戦方式はスイス方式とのことで、最終的に勝数が同じだと対戦した相手の成績ポイントを比べ、それでも同率の時は年齢の高い方と、思ったよりわかりやすい方式でした。また、午前中の 2 局が連敗だと、午後は日本のプロ棋士、それもテレビで見る有名なプロとの指導碁を打てるというのも魅力に感じました。さらに韓国のプロ一人も加わることで、幸い私は二連勝でしたので、指導対局を受けられずちょっと残念でした。

さて、お弁当も豪華で驚きました。ロータリークラブの大会とはいえ、名店のすき焼き弁当でしたから……。でも後で聞くとところによると、参加会員の口利きもあるとのことで、色々便宜も図ってもらえているのだな、と納得しました。



また、碁を打たないにも関わらず、大会のお手伝いに来てくれている方が 20 人前後も来てくれていて、中には若い方もいて本当に一生懸命手伝ってくれている姿にはただ感謝、感謝でした。

ということで、少々恥ずかしくですが、自分の対局を思い出してみます。

4 人の対局者は、韓国 3 人、日本 1 人。しかも韓国 3 人のうち、2 人は女性でした。外国人と碁を打つのも初めて、女性とも初めてで、まさに初めてづくしの日でした。そもそも記憶力が衰えてきている上、さらに極度の緊張のため、対局の手順はおろか、内容もほとんど覚えていません。ですがその中で、かすかに印象に残っていることを書き留めたいと思います。

1 回戦は李東眞初段。最初からずっと押しまくられて、ほとんど諦めかけていたところ、多分、李初段の勘違いだったと思いますが、手を抜いたため隅に問題が生じて辛勝となりました。2 回戦は太田清文初段。ご存知の通り、本大会の大会幹事という重職を務められてい

て、この世界囲碁大会の顔役と聞いていました。対戦開始してまもなく、太田初段の携帯電話にトラブルが発生、送受信ができない状況に陥ってしまいました。携帯無しには大会運営の要を果たせず、一応、対局は続けたものの、それどころの話ではなかったと思います。結果的には不戦勝のようなものでした。その後、携帯は無事復旧し、私も胸を撫で下ろした次第です。

3回戦は徐賢淑2級。相手に石を置かせて碁を打ったことはほとんど経験がない中で、三子も置かせての対戦でした。置き碁の勝手もわかりませんから、序盤早々から猛攻撃を受けて、息も絶え絶え、ほとんど瀕死の状態に追い込まれたのですが、徐2級のミスにより首の皮一枚で生き残り、これまた辛勝です。

最終4回戦は高利順初段。3連勝同士ですから緊張しましたが、珍しく序盤で優勢になり、内心、今回はと思った瞬間、つながっているはずの大石が切れてしまうことが判明。ギブアップを覚悟したところ、高初段が咎めそこない、勝ちを拾いました。いずれも実力ではなく、ビギナーズ・ラックで勝たせていただいたというのが正直なところで、対戦相手には誠に申し訳なく存じます。

最後に、このような素晴らしい大会を企画し、運営にあられた大会役員、特に携帯のトラブルで勝たせていただいた太田様、そして事務局の皆様に厚く御礼申し上げるとともに、GPFRの益々のご発展を心より願っております。また、次回は今回急遽参加できなかった台湾のお仲間、そして新しく入られたアメリカの方とも対局できるかと思うと、今から楽しみでしようがありません。

「友」6月号をご覧ください

6月はロータリー親睦月間です。GPFRはRIの公式の親睦団体です。それも韓国と台湾に声をかけ日本発進の最初の公認団体となり、毎年春に国際囲碁大会、秋に全国囲碁大会を開催して、その活動が「友6月号」に2ページ見開きで取り上げられました。

クラブ内の囲碁好きの方々に「友」の記事を紹介してください。

ホームページを改定しました

gopfr.org を検索してください

第19回 RI 東京囲碁大会

恒例の前夜祭。会場近くの寿司店で韓国チームを招待して交流に努めました。韓国チームは柳支部長を除いた15名が大邱囲碁RCのメンバー。世界唯一の囲碁RCで、例会は食事のあとが囲碁大会だそう。女性だけの囲碁RCを視野に入れて会員拡大に。



上級クラス初優勝の金河成六段 (右)



韓国チームの女性参加者は5名。日本1名。



中級者クラス優勝の柳韓国支部長 (左) に賞品授与する新藤支部長



上位クラス準優勝の江村六段 (右)。過去二度の世界チャンピオンになりながら、ホームで手痛い敗北に



日本棋院より派遣を受けて指導にあたる土井誠八段。大森泰志八段と韓国プロ棋士も多面碁指導に



大会後はホテルでの表彰式と懇親会。柳韓国支部長はカラオケ大会でダンスに興じてご満悦。



10月6日（土）に全国大会開催

GPFR 日本支部は2018年10月6日（土）午前10時から東京・市ヶ谷の日本棋院本院1階の対局室で「第17回ロータリー全国囲碁大会」を開催します。3クラス制、1時間の早碁戦で、同クラブ上位2人の得点によるクラブ対抗戦も行います。登録受付は09:30、昼食挟み4局の予定。表彰式は16:00の予定です。

3クラスとも上位4位まで入賞楯を用意。登録料7000円（昼食代等含む）。申し込み締め切りは9月15日（土）。定員100人ですので早めにお申し込みください。

大会参加申込書をご利用の上、**GPFR 専用 FAX (03-3452-1652)** に所属クラブを通じて送信をお願いいたします。送金方法等は下記のご案内をお確かめください。

会費納入のお願いと全国大会のご案内

ロータリアンの囲碁仲間をGPFRにお誘いください。新規入会のお申し込みは、ご本人の地区、クラブ、氏名、年齢、級段位を明記して所属のクラブ事務局を通じてFAXで下記のGPFR日本支部宛に送信をお願いいたします。年会費2000円。入会金はありません。

年会費は、同封の郵便振替用紙（口座番号00100-0-427835 ロータリー囲碁同好会宛）をご利用のうえ、**2018-19年度会費分として新年度7月末までに2000円をご送金ください**。ロータリーは7月が年度の切り替えですので、年度を明記してご送金ください。

10月6日（土）の「ロータリー全国囲碁大会」に参加ご希望の方は、同封の「参加申込書」にご記入の上、FAXで送信して下さい。日本支部より折り返し大会要領・地図等をご連絡致します。会員を優先しますので、**会員は同封の郵便振替用紙に「全国大会参加」と明記して、お早めに大会登録料7000円と年会費2000円の計9000円をご送金ください**。定員100名です。クラブ内のロータリアン、ご家族のご参加も歓迎いたします。

なお、振込み手数料(100円)はご負担ください。GPFRは皆様の会費で運営しておりますので、何卒、会員の増強と会費の納入のご理解とご協力をお願い致します。GPFRの活動については新装の**HP** (<http://www.gopfr.org>) をご覧ください。

〒104-0031 東京都中央区京橋2-11-8 全医協連会館1F
2580 地区ガバナー事務所内 ロータリー囲碁同好会
専用 FAX 03-3452-1652
日本支部長 PDG 新藤信之